

## 空知管内 JA 青年部道外農業視察研修に参加して

令和 2 年 2 月 18 日～2 月 20 日(東京 神奈川)

JA びばい青年部 伊藤一郎

2 月 18 日から 20 日までの 3 日間、空知管内 JA 青年部道外農業視察研修に参加してきました。

1 日目は第 66 回全国 JA 青年部大会が行われるホテルメルパルクホールへ移動し大会を見ました。この大会は各支部から勝ち上がってきた青年部の盟友が自分たちの熱い思い等を発表する場です。全国大会だけに各青年部の熱の入りようはものすごいものがあります。個々の青年部盟友が自身の思いを言葉に乗せて発表する青年の主張や各青年部の活動内容を発表する組織活動実績発表がありました。

どちらの発表も私は最優秀賞を受賞した方々に感銘を受けました。青年の主張で最優秀賞を受賞した JA 鹿本青年部山本支部の原田実さんは「受け継いでいくもの」をテーマに原田さん自身が就職した状態から実家の農業を立て直すために就農した事を語り就農した時に出会った 3 人の師匠との思い出や師匠達から受け継いだ思いや自身の理念である「熱意 つながり 共有」を熱く発表。私は 14 年間も働いていた就職先を辞めて自分がやる! と行動した原田さんの熱意と情熱は本当に凄いいし、普通ここまでできるかと思いました。

組織活動実績発表で最優秀賞を受賞した JA 中札内青年部は「食育難民」をテーマに地域の風土を存分に生かした活動内容を発表。大人から子供まで楽しめる食育やタニタ式健康ポイント事業を絡めて説得力のある青年部活動を堂々とプレゼンしました。JA 中札内青年部の発表は全道大会でも見たのですが、全道大会よりも発表内容がより熟練されていました。青年部活動が地域密着型であるのがとても素晴らしく、JA 青年部組織綱領まで絡めてきたのには脱帽としかいいようがありません。

2 日目は前日と同様に全国 JA 青年部大会に参加。農業に未来はあるのか?～本音で語る農政トーク～をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネラーとコーディネーターの方々が一方的に喋るのではなく、携帯アプリを使用し会場にいる方々にも討論に加わるという形で話が進みました。パネルディスカッション終了後は表彰式が行われ第 66 回全国 JA 青年部大会は無事に終了しました。

2 日目の午後からはホクレン東京支社に移動し米にめぐる情勢や青果物をめぐる情勢について学びました。米にめぐる情勢についてかなりシビアな話を聞きました。共働き世帯の増加により朝、米を炊かない世帯が増えており朝ごはんの外出派が増えていることや業務用途の米需要が増えている事等。朝ごはんに対して調理時間を短縮していると聞いた時は今のご時世なら仕方がない事なんだろうと思いました。ただ、今まで敬遠されがちだった高タンパク米の新規需要が新たに出てきたという事を聞きこれからのお米に関する考え方が少し変わりました。

青果物をめぐる情勢についても米と同様にシビアな話を聞きました。海外の野菜等が日

本に輸入されている中、野菜も加工されている物にニーズがあるらしく、特にカット野菜等にニーズがあることを学びました。加工業務用野菜は特にニンジンやカボチャ、キャベツ、ブロッコリー等にニーズがあるという話を聞きました。

3日目は神奈川県平塚市にある JA 全農営農・技術センターに移動し視察に行きました。JA 全農営農・技術センターは商品開発や農薬・肥料・生産資材・エネルギーの研究室、また残留農薬検査室、商品管理室等があり農業に関する研究研修を行っている所です。研究室の方に施設内の案内等をしてもらい色々な最新技術を見学しました。

最後になりますが、この研修に参加して青年部の盟友による熱き思いや農業に関する様々な考え方や最新技術を知る事ができとても充実した3日間でした、また一緒に研修に参加した他の青年部の盟友の方々とも交流ができ、普段できない経験をできました。この研修で得た知識等を今後の青年部活動や営農に役立てていきたいです。

## 空知管内 JA 青年部道外農業事情視察研修 参加レポート

令和 2 年 2 月 18～20 日（東京）

JA びばい青年部 塚本 健二

この度 2 月 18 日から 20 日の日程で、空知管内 JA 青年部道外農業事情視察研修に参加させて頂きました。

1 日目は第 65 回 JA 全国青年大会に参加、JA 全青協活動報告と JA 青年の主張全国大会、そして JA 青年組織活動実績発表全国大会が開催されました。全国から各ブロック 6 名、合計 12 名の情熱が込められた発表は同じ青年農業者として胸が熱くなる思いでした。

2 日目も引き続き全国大会に参加、まず「農業に未来はあるのか？～本音で語る農政トーク！！～」と題し、アンケート結果をリアルタイムに反映・確認できるサービス

「mentimeter（メンチメーター）」を活用したパネルディスカッションを行いました。その後各種発表・コンクールの表彰式が行われ、JA 青年組織手づくり看板全国コンクールにおいて当 JA びばい青年部の作成したスノーメッセージがアート部門賞を受賞、壇上で前事業委員長の小野幸光さんは緊張の面持ちながらしっかりと表彰を受けていました。

午後からはホクレン東京支店にて意見交換会を行いました。内容は大きく 2 つ、「コメを巡る情勢について」そして「青果物を巡る情勢と道内産地に対して期待すること」についてでした。コメに関しては北海道米の売上は上位に定着しているものの、食生活の変化から一般家庭の消費は減り、業務用途における販売ニーズが増加している現状にあるようでした。青果物に関しても野菜の消費量は減少傾向、しかしサラダの購入金額は増加傾向にあり、家計消費よりも加工・業務用の需要が増加している傾向にあると知らされました。道産農作物のイメージは幸いなことに一般消費者・メーカー共に良い方向にあるようで、どちらの需要も踏まえた生産・販売戦略を今一度考える良い機会となった意見交換会でした。

3 日目は JA 全農営農・技術センターの視察見学に向かいました。昨年度の営農学習会で紹介されたトロ箱養液栽培システム「ういず One」等の生産資材の研究開発や、残留農薬検査の設備等を見学させて頂きました。生産者の求める省力・低コストの農業生産、消費者の求める安全・安心でおいしい農畜産物というニーズに応えながら、生産者と消費者を安心して結ぶ架け橋になる技術拠点であるという自負を感じ取れる視察見学でした。

今回 JA 全国青年部大会に始まり、意見交換会や視察見学と大変勉強になる研修と、空知青年部の盟友の方々々と親睦を深める絶好の機会を与えて頂き有り難く思います。今後この様な得るものが多い視察研修が継続して行われ、より多くの盟友が参加してくれることを願います。

## 令和2年度空知管内JA青年部道外農業事情視察研修

令和2年2月18日～20日

JAみねのぶ青年部 副部長 佐藤 勝彦

2月18日から20日の3日間で空知管内JA青年部道外農業事情視察研修に行ってきました。

一日目は東京のメルパルクホールにて二日間通して開催される、第66回JA全国青年大会に参加しました。大会は会長の挨拶から始まり、メインの「JA青年の主張」6名、「JA青年組織活動実績発表」6単組の発表を見ました。全国大会はどれも内容、発表の技術共にレベルが高く圧倒されました。青年の主張で特に印象に残っていたのは東北・北海道ブロック代表の発表で、トラックドライバーやっていたときの事故で視力を片目の視力を失い、失意のどん底にいる時に青年部の声が掛かったところから農家に転身するというお話でした。青年部の存在の大事さと、もっこりニラというブランドの産地復活に向けて前向きに努力している内容に刺激を受けました。

実績発表では、東北・北海道ブロック代表、同じ北海道のJA中札内村青年部の「食育難民」という題目の発表が印象的でした。今年度私たちJAみねのぶ青年部も実績発表で食育をテーマにさせていただげにとっても興味深いものでした。地域とのつながり、消費拡大、地域貢献するためにいろいろな工夫された事業に関心しました。若い世代の食の知識・意識の向上に向けた、どれも素晴らしい事業だと思いました。

二日目も引き続き全国青年大会に参加しました。青年部PR動画を見た後、パネルディスカッションでJA青年組織がどう政治・農政と関わっていくかというような内容のお話でした。スマホを利用したアンケートやクイズもあり、参加した盟友みんなが楽しめたのではないかと思います。続いて審査講評・発表、表彰式では、実績発表で同じ北海道のJA中札内村青年部が最優秀賞を受賞しました。北海道が最優秀賞を受賞するのは昭和63年以来ということもあり、地域は全然違いますが同じ北海道としてとても感動しました。空知管内でもJAびばい青年部がスノーメッセージでアート部門の受賞をしていました。

午後からはホクレン東京支店にてコメを巡る情勢についてと、青果物を巡る情勢について説明を頂きました。この10年間で日本の世帯構成が単身世帯中心へと変化し、共働きが多くなったことで消費や流通に大きく変化をもたらしていると言っていました。その結果、外食産業や加工飯米の消費量が拡大し業務用の米のニーズが高まっていると説明いただきました。米価上昇と糖質制限、食品ロス削減のトレンドもあって米の消費量は右肩下がり、消費量の拡大に向けていろいろな事をしていました。特に興味深かったのは高タンパク米の商品開発を模索しているというお話でした。青果の方では、「生産者の高齢化・減少」「産地の選果能力低下」「資材・物流コストの上昇」に対しての取り組みについての説明が印象的でした。一例でしたが、ブロッコリーの集荷方法で新しく鮮度保持フィルムを使うことで水

詰め、労力削減や製氷機の設備投資削減でき、労力削減による生産規模の拡大を期待しているとの事でした。

三日目は、JA全農営農・技術センターに行ってきました。ここでは最新の技術や栽培方法などを学びました。地下水位制御システムや、水稻育苗ハウスを利用してトロ箱栽培という新しい養液栽培方法のお話が興味深く面白かったです。館内も見回り、残留農薬検査の機械や、その方法の説明などを聞いたりしました。

最後に、今回の研修は自身の視野を広める良い経験となりました。この研修に参加させて頂く機会をくださった皆様方に感謝申し上げます。



研 の 施 設 を 見 学 し ま し た 。 施 設 で は 土 壌 分 析	最 終 日 の 研 修 で は 、 神 奈 川 県 に あ る 全 農 総	い 機 会 だ っ た と 感 じ ま し た 。	ト レ ン ド な ど 、 様 々 な 観 点 か ら 議 論 で き る 良	物 や 米 の 価 格 推 移 、 今 の 消 費 者 が 好 む 商 品 の	話 を 聞 く こ と が で き ま し た 。 関 東 圏 で の 青 果	に よ っ て 需 要 を 満 た し て い き た い 、 と い っ た	み ま る な ど の 新 品 種 の 直 播 栽 培 を 進 め る こ と	と や 、 業 務 用 米 の 需 要 の 高 ま り を 背 景 に 、 え	に 付 加 価 値 の あ る 商 品 と し て 開 発 中 で あ る こ	こ れ ま で 需 要 の な か っ た 高 た ん ば く 米 を 新 た	品 が 人 気 で あ る 近 年 の 食 品 需 要 に 合 わ せ て 、	サ ラ ダ チ キ ン や 大 豆 食 品 な ど の 高 た ん ば く 食	果 物 担 当 の 方 と の 意 見 交 換 会 に 参 加 し ま し た	大 会 終 了 後 は ホ ク レ ン 東 京 支 所 の 米 穀 、 青	り ま し た 。	の 農 業 者 と 交 流 で き た こ と は 、 良 い 経 験 と な	る 機 会 が あ り 、 普 段 会 う こ と の な い 他 の 地 域	懇 親 会 で は 空 知 管 内 の 多 く の 盟 友 と 交 流 す	き 点 が 多 く あ る と 感 じ ま し た 。
--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	-----------------------	--	--	---	--

や残留農薬の検査、新技術の研究が行われて  
いました。  
今回の研修を通して、同世代の盟友の思い  
や考え方、農業の多様性について改めて考え  
させられる場面が多く、大変有意義な研修だ  
ったと思います。  
最後になりましたが、研修に参加するにあた  
ってお世話になった関係各位の皆様感謝い  
たします。ありがとうございました。